

40379

教科書文庫

4
1760
31-1914
01304
49462

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



萃拔

高等小學唱歌
 定國教科書準據
 諸教科統合

第一學年

中央図書館

拔萃
高等小學唱歌

第一學年

東京高等師範學校教諭 大橋銅造
學習院 教授 納所辨次郎 共編
東京高等師範學校教諭 田村虎藏

發賣所

株式會社
國定教科書共同販賣所

広島大学図書

0130449462



緒言

一、本書は、高等小學校唱歌科教師用及兒童用として、明治四十一年八月五日、**文部省檢定濟**となりし『**高等小學唱歌**』**第三・四學年**の教材中より、現今の唱歌教授に、最も適切なるものを拔萃して、各學年毎に合本したるものなり。

二、教材は、之を各學年各學期に配當し、序を追ひて教授するに適應せしめたり。

三、歌詞の假名遣が、現行小學讀本と一致せざる所あるは、當初、文部省の檢定を経たるまゝを襲用したればなり。實地教授の際、其の心して取扱はれんことを望む。

四、當時の高等小學第三・四學年は、即ち、現今の高等小學第一・二學

年に相當せり。されば、今回の拔萃合本を期として、其の名義を改め、以て、彼此の混同を避けたり。

五、本書出版以來、年既に久しく、夙に、絶版の状態にありき。しかも江湖の需要、今猶衰へずして、之が供給を希望せらるゝこと、其の數少からず。此を以て、本發行者は、本書を複製して、此の要求を充たさんことを謀り、編者と原發行者との同意を得て、茲に、此の合本を刊行するに至れり。一言を附して、其の由來を述べること此の如し。

大正三年四月三日

編者識

高等小學唱歌

第一學年

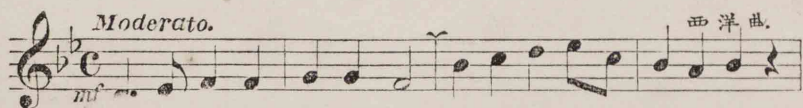
目次

一	樂しき我家	三
二	三種の神器	五
三	協同一致	七
四	韓國旅行	二
五	橘媛	五
六	鴻門の會	七
七	揚子江	九
八	象	三
九	遣唐使	六
第二學期		
一〇	世は相持 <small>あひまも</small>	元
一一	ニュートン	三
一二	間宮海峡	三
第三學期		
一三	和氣清麻呂	三
一四	開墾	七
一五	ワシントン	元
一六	慈善	四
一七	俊寛僧都	三
一八	サハラの大沙漠	三
第一學期		
一九	コロンブス	五〇
二〇	初雪	三
二一	公德	三
二二	ナイヤガラ瀑布	六
二三	武士道	二
二四	奉天會戰	四
二五	阿新丸	六

樂しき我家

(變る調四拍子)

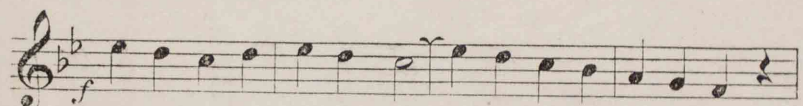
樂しき我家



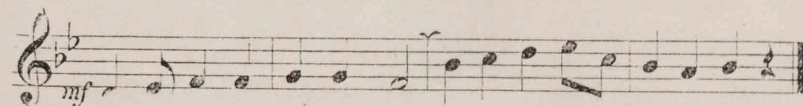
3. 4 5 5 | 6 6 5- | i 2 3 4 2 | i 7 i 0 |
 1. チ ナ ウ ヘ イ マ スー タ ノ シ キー ヲ ガ ヤ
 2. ア ニ ヲ ヘ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
 3. ガ ト ト モ ス マ フー 、 、 、 、 、 、 、 、



3. 4 5 5 | 6 6 5- | i 2 3 4 2 | i 7 i 0 |
 ハ ハ ウ ヘ イ マ スー タ ノ シ キー ヲ ガ ヤ
 ア ネ ヲ ヘ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
 イ モ ト モ ス マ フー 、 、 、 、 、 、 、 、



4 3 2 3 | 4 3 2- | 4 3 2 i | 7 6 5 0 |
 ジ ア イ ノ ヒ カ リー ハ ル ビ ノ ゴ ト ク
 モ モ チ ノ ナ サ ケー ツ ユ ヨ リ シ ゲ ク
 ウ レ シ キ コ ト モー カ ナ シ キ コ ト モ



3. 4 5 5 | 6 6 5- | i 2 3 4 2 | i 7 i 0 ||
 テ ラ シ テ ツ ネ ニー フ レ ラ ナー ソ ダ ツ
 ソ ソ ギ テ ナ ガ クー フ レ ラ ナー メ グ ム
 タ ガ ヒ ニ フ カ ナー タ ガ ヒ ニー タ ス ク

二



第一章

父上います樂しき我家、 母上います樂しき我家、

慈愛の光、春日の如く、 照らして常に我等を育つ。

第二章

兄上います樂しき我家、 姉上います樂しき我家、

百千のなさけ、露より滋く、 注ぎて長く我等を恵む。

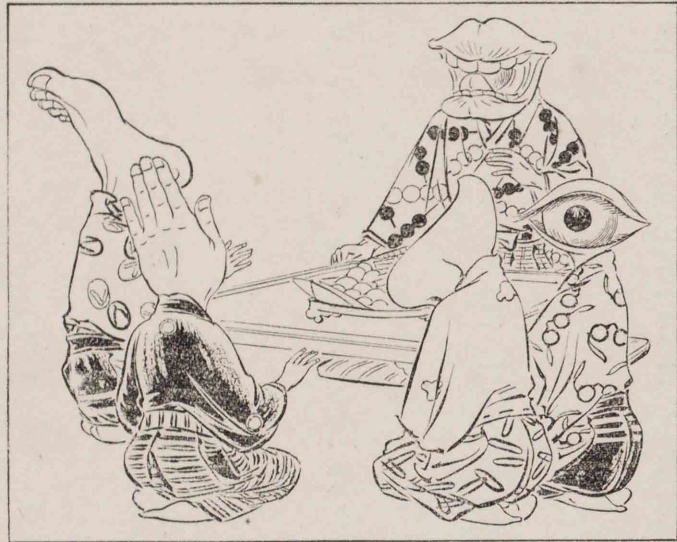
第三章

弟も住まふ樂しき我家、 妹も住まふ樂しき我家、

嬉しき事も、悲しき事も、 互に分ち互に助く。

樂しき我家

三



協同一致
石原氏

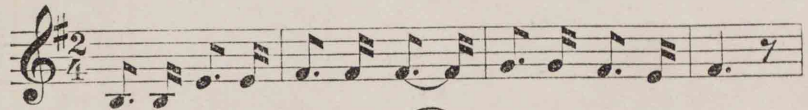
一、ある時、口が首唱にて、
目・鼻・手足のうち集ひ、
相談會をぞ開きける。
さて、まづ、口のいへる様。
二、たい、胃の腑といふやつは、
われくどもが働いて、
毎日送る食物を、
遠慮もなしに、食べて居る。

協同一致

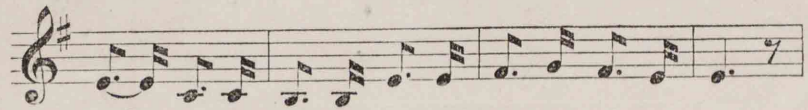
(ほ短調二拍子)

淋シゲニ

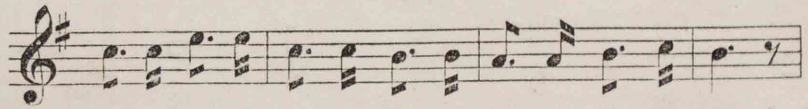
納所氏



3. 3 6. 6 | 7. 7 7. 7 | 1. 1 7. 6 | 7. 0 |
1. アル ト キ ク チ ガー シュ ショー ニ テ
2. イ ッ タ イ イ ノ フ ト イ フ ヤ ツ ハ



6. 6 4. 4 | 3. 3 6. 6 | 7. 1 7. 6 | 6. 0 |
メー ハ ナ テ ア シ ノ ウ チ ツ ド ヒ
ラ レ フ レ ド モ ガー ハ タ ラ イ テ



4. 4 6. 6 | 4. 4 3. 3 | 2. 2 3. 4 | 3. 0 |
ソー ダン カ イ チ ソー ヒ ラ キ ケ ル
マイ ニ チ オ ク ル ショク モ ツ チ



4. 4 3. 3 | 1. 1 3. 3 | 1. 1 7. 7 | 6. 0 |
サ テ マ ツ タ チ ノー イ ヘ ル ヨー
エン リョモ ナ シ ニー タ ベ テ ナ ル

三、われ／＼どもは胃のために、むだ骨を折る。今よりは、

その働をやめにして、胃の腑に、つらきめを見せん。」

四、みな／＼げにもと同意して、目は物を見ず、鼻かがず、

足、食堂に行くをやめ、手は、箸をだにとりもせず。」

五、かくて、二、三日たゝぬ間に、體は自然に衰へて、

耳は鳴り出す、目はくらむ、手足はなゆる、いかにせん。」

六、この時、胃の腑いへる様、諸君が、今さら苦むは、

自業自得といひながら、ものゝ道理を知らぬ故。」

七、諸君のおくる食物は、われら夜晝消化して、

その血は五體に送らるゝ、これぞ互のためなれや。」

八、手足をはじめ耳・鼻は、このことわりに夢さめて、

此後は胃の腑をうらやまず、互のつとめをつくしけり。」

韓國旅行

(と調二拍子)

快活ニ

田村氏



5 1 1 3 | 2. 1 2 3 | 5. 6 5 3 | 2. 0 |

1. ト ホ - キ カ ミ ヨ ノ △ カ シ ヨ リ

2. △ カ - シ ガ タ リ ニ ヨ ハ フ ケ テ



1. 1 1 3 | 2. 1 6 5 | 3. 5 6 1 | 5. 0 |

ユ キ キ ハ タ - エ デ イ マ モ ナ ホ

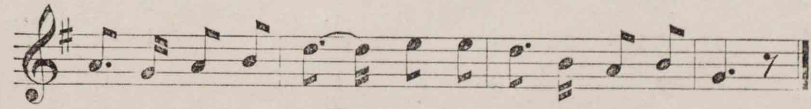
シ ズ カ ニ ス - ス △ ロ ガ フ ネ ノ



6. 6 1 5 | 6. 6 1 2 | 3. 2 1 2 | 3. 0 |

シ タ シ キ ク ニ ヨ - カ シ コ ク ハ

ユ ク テ ニ ア - ク ル カ シ ノ ヤ マ



2. 1 2 3 | 5. 5 6 6 | 5. 3 2 3 | 1. 0 |

ツ シ マ ノ ニ - シ ニ イ ト チ カ シ

ア サ ヒ ナ ウ - ケ テ マ ネ ク ナ ヲ

韓國旅行

蘆田氏

一、遠き神代の昔より、

ゆき來は絶えて今もなほ、

親しき國よ、韓國は、

對馬の西にいと近し。」

二、昔語に夜は更けて、

靜に進むわが船の

行くてに明くる韓の山、

朝日を受けて招くなり。」

三、ながめも飽かぬ絶景の

島の景色を惜みつゝ、

進みておろす碇こそ、

釜山港とておと高し。」

四、京城までは遠けれど、

開け行く世の嬉しさは、

牙山・安城、時の間に、

汽車のながめの飽かずして。」

五、さても、都に来て見れば、

八門城壁いかめしく、

鐘路の北に、宮城の

高く見ゆるも尊しや。

六、都を去りて仁川に、

向ふも近き汽車の道。

しげき出入の船見ては、

港のさかえ思はる。

七、碧蹄館に、平壤に、九元山津に船まちて、

血汐そぎし跡とへば、

やうく釜山に歸り來ぬ。

月、心なく輝きて、

蔚山沖の戦場を、

水、心なく流るなり。

心のあてに、尋ねつ。

八、京義鐵道、乗り終へて、

一〇、我國民の韓國に、

鴨綠江をさかのぼり、

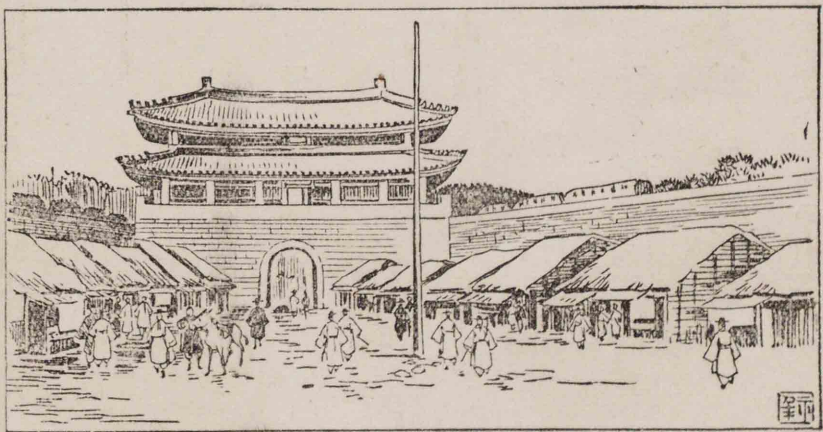
盡せるわざの蹟見れば、

更に山路をわけ行けば、

長き旅路も外つ國の、

白頭山の峯高し。

思はなく、なし終へつ。





一、あはれ、相模の海はいづこ、
 立てる白波、わたる嵐
 遠く望めば、果も知らず、
 悲し、逝きつる媛のゆくへ。
 二、媛を載せたる舟はいづこ、
 たどる東路、出でし都、
 心おもへば、盡きぬ涙、
 悲し、沈める波のあなた。』

橋 媛
 大和田氏

橋 媛

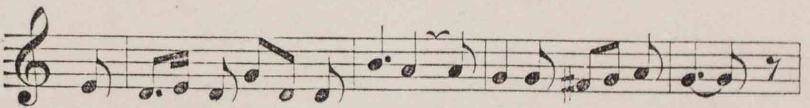
(は調六拍子)



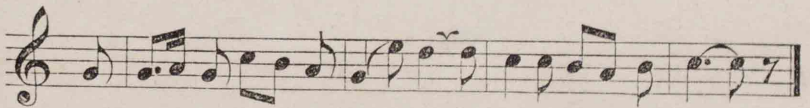
Friedr. Sitcher.
 | 5 | 5.6 5 i 7 6 | 5.4 4 | 3 3 2 1 2 | 3.3 0 |
 1. ア ハーレサーガ ミノウ ミハイーツ コー
 2. ヒ メーテノーセ タルフ ネハイーツ コー



| 5 | 5.6 5 i 7 6 | 5.4 4 | 3 3 5 4 2 | 1.1 0 |
 ♫ テールシーラ ナミヲ タルアーラ シー
 ♫ ドールアーツ マガイ デシミーヤ コー



| 3 | 2.3 2 5 2 2 | 7.6 6 | 5 5 ♯4 5 6 | 5.5 0 |
 ト ホークノーゾ メバハ テモ シーラ ズー
 コ コーロガーマヘマツ キメ ナーミ ダー



| 5 | 5.6 5 i 7 6 | 5 3 2 2 | i i 7 6 7 | i.i 0 |
 カ ナーシユーキ ツールヒメノユークヘー
 カ ナーシシーヅ メールナミノアーナター

一、北に向へる人やたれ、
 西に坐れる人やたれ。
 卓を圍める双龍双虎
 あはや起らん、雨か風か。
 二、立ちて踊れる人やたれ、
 つがひて舞へる人やたれ。
 うちふる劍は流星電火
 すはや危し、間一髪
 三、怒れる髪をさかだて、
 帷かゝぐる人やたれ。
 いなまで受くる酒と肉
 いつか赤龍雲にのりつ。



鴻門の會

(〜調四拍子)

勇壯ニ

田村氏

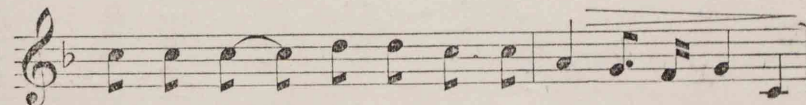
鴻門の會



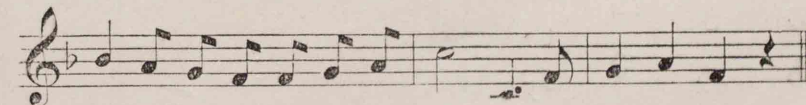
5. 5 6 5 | 1 2 1 2 3 2 | 5- 3. 1 | 2 3 2 0 |
 1. キー タ ニ ムー カー ヘル ヒート ヤ ター レ
 2. ター チ テ チー ドー レル 、 、 、 、 、 、
 3. イ カ レ ル カー ミー チー サー カ ダ テー テ



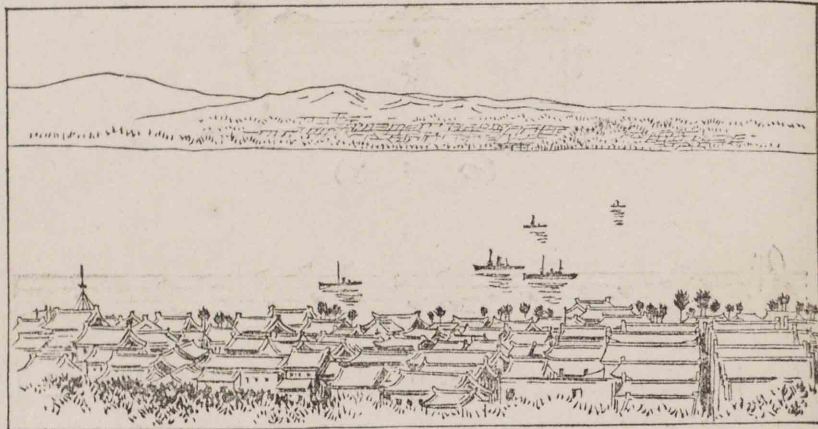
5. 5 6 5 | 1 2 1 2 3 2 | 5- 3. 1 | 2 3 1 0 |
 ニー シ ニ スー ロー レル ヒート ヤ ター レ
 ツガ ヒ テ マー ヘー ルー 、 、 、 、 、 、
 トー バ リ カー カー グル 、 、 、 、 、 、



5 5 5 5 6 6 5 5 | 3 2. 1 2 5 |
 タ ク チー カ コ メ ル ソー リユー ソー コ
 ウ チ フ ル ケ ン ハー リユー セ イ デン カ
 イ ナ マ デ ウ ク ルー サ ケ ト ニ ク



4 3 2 1 1 2 3 | 5- 5. 1 | 2 3 1 0 ||
 ア ハ ヤ ガ コ ラ ン アー メ カ カ セ カ
 ス ハ ヤ ア ヤ フ シ カン イ ツ バー ツ
 イ ツ カ セ キ リユー ケー モ ニ ノ リ ツ



揚子江

揚子江 佐々木氏

一、水源はるかに水量多く、
 世界に冠たる大河の流。
 歴史は幾たび變遷すとも、
 大なる流は昔のまゝに。
 二、長さは三千三百哩、
 洞庭鄱陽の水をも合せ、
 重慶・漢口・江寧なども、
 皆この流に沿ひたる都會。
 三、南北二つに支那をば分ち、
 四百餘州の死活を制す。
 歴史は幾たび變遷すとも、
 汝は變らじ大なる流。」

揚子江

(と調三拍子)

揚子江

輕快ニ Spanish.

1. 2 3. 2 1 6 5 3 1. 2 3. 2 3 5 2-
 1. ス イ ゲ ン ハ ル カ ニ ス イ リ ョ ー ガ ホ ク
 2. ナ ガ サ ハ サ ン セ ン サ ン ビ ャ ク マ イ ル チ
 3. ナ ン ホ ク フ タ ツ ニ シ ナ チ バ ヲ カ チ

1. 2 3. 2 1 6 5 3 1 6 5. 3 2. 3 1-
 セ カ イ ニ カ ン タ ル タ イ ガ ノ ナ ガ レ
 ト テ イ ハ ヨ ノ ミ ツ ナ モ ア ハ セ
 シ ヒ ャ ク ヨ シ ュ ノ シ カ ツ チ セ イ ス

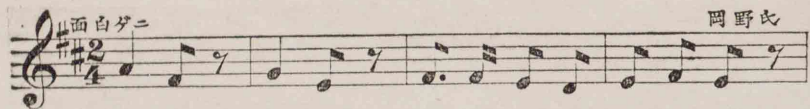
3. 4 5. 6 5 4 5 3 1. 2 3 4 3 3 2 2 1
 レ キ シ ハ イ ク タ ビ ヘ ン セ ン ス ト モ
 チョ ケ イ カ ン コ コ ー ネ イ ナ ド モ
 レ キ シ ハ イ ク タ ビ ヘ ン セ ン ス ト モ

1. 2 3. 2 1 6 5 3 1 6 5. 3 2. 3 1-
 ダ イ ナ ル ナ ガ レ ハ ム カ シ ノ マ マ ニ
 ミ ナ コ ノ ナ ガ レ ニ ソ ヒ タ ル ト カ イ
 ナ ン イ ハ カ ハ ラ ジ ダ イ ナ ル ナ ガ レ

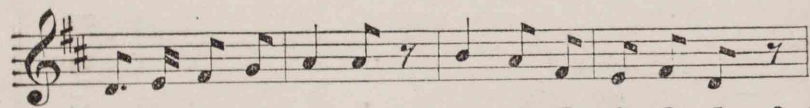


象

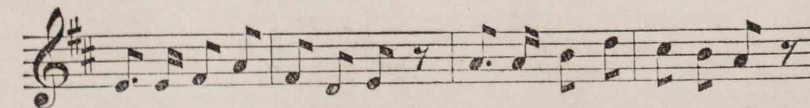
(に調二拍子)



5 3 0 | 4 2 0 | 3. 3 2 1 | 2 3 2 0 |
 1. アレ アレ ミツノホトリニ
 2. 、 、 、 、 ハヤシノナカチ



1. 2 3 4 | 5 5 0 | 6 5 3 | 2 3 1 0 |
 アマタノソノ アレアソブヨ
 、 、 、 、 、 、 、 トホルヨ



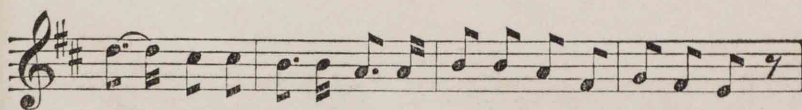
2. 2 3 5 | 3 1 2 0 | 5. 5 6 i | 7 6 5 0 |
 ミヨソノナガキ ハナチズノベテ
 ミヨソノマロク フトレルカラダ

二

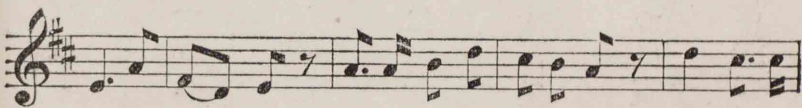


(つづき)

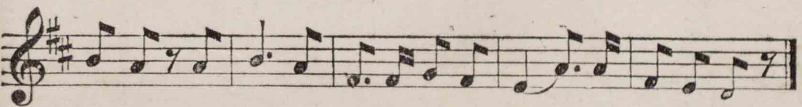
象



i. i 7 7 | 6. 6 5. 5 | 6 6 5 3 | 4 3 2 0 |
 ミーツチスヒテハクチニハコブヨ
 ナチフムオトダモタテズアユムヨ



2. 5 | 3 1 2 0 | 5. 5 6 i | 7 6 5 0 | i 7. 7 |
 セナニハユフヒチアピテヤマノ
 アサカーゼヤシノハフイテコガク



6 5 0 5 | 6. 5 | 3. 3 4 3 | 2 5. 5 | 3 2 1 0 ||
 ゴトクログツラナルゾノムレヨ
 レチイヅコヘタドル、 、 、 、

二〇



一、あれく、水のほとりに、

あまたの象の

群れ遊ぶよ。

見よ、その長き鼻をばのべて、

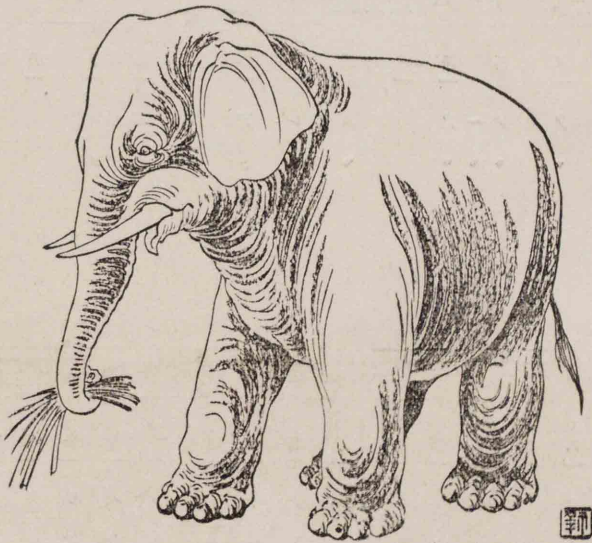
水を吸ひては、

口に運ぶよ。

背には、夕日をあびて、

山のごと、黒く連なる、

象の群よ。」



二、あれく、林のなかを、

あまたの象の

群れ通るよ。」

見よ、その圓く太れる體軀、

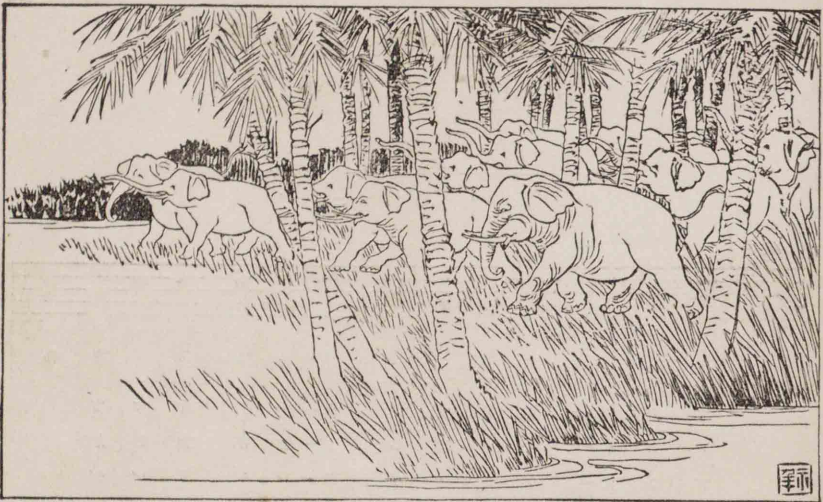
地を踏む音だも

立てず歩むよ。」

朝風、椰子の葉、吹いて、

木がくれを、いつこへたどる、

象の群よ。」



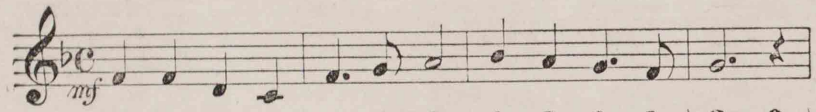
遣 唐 使

(へ調四拍子)

遣唐使

輕快ニ

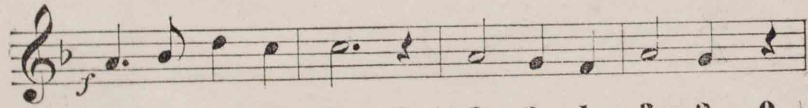
田村氏



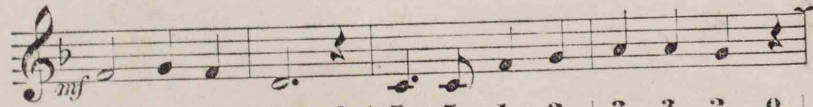
1. 1 1 6 5 | 1. 2 3- | 4 3 2. 1 | 2-0
 1. ナニハノツヨリーフナテシテ
 2. カガミノゴトキーウナバラモ
 3. ナニハノツニハーカヘリキス



1 1 6 5 | 1. 2 3 3 | 4 3 2. 3 | 1-0
 カゼニマカスルヨツノフネ
 アレテハスゴキーナミノオト
 カゼニマカセテヨツノフネ



3. 4 6 5 | 5-0 | 3-2 1 | 3-2 0
 ケントーシイマゾターツ
 ヨツノフネターダヨヒーメ
 ケントーシイマゾツーク



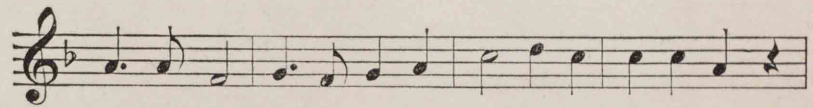
1-2 1 | 6-0 | 5. 5 1 2 | 3 3 2 0
 オホギミノオホセチウケテ
 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

二五

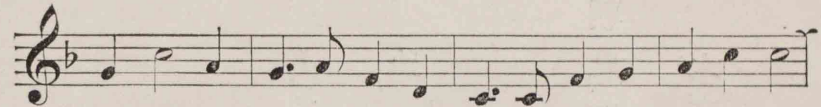
遣 唐 使

(つづき)

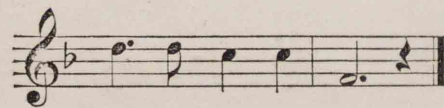
遣唐使



3. 3 1- | 2. 1 2 3 | 5-6 5 | 5 5 3 0 |
 コクショーササゲテグーモカヤマカ
 シメイハタサンカーゼカナミカ
 アンカーツダヘテウレシウレシ



2 5-3 | 2. 3 1 6 | 5. 5 1 2 | 3 5 5-
 ナミーザハルケキモロコシサシター
 アルールフナザチ、 、 、 、 、 、 、
 ヨピカフコーエニミクニノサカエ



6. 6 5 5 | 1-0 ||
 イサマシク
 、 、 、 、 、
 トコトハニ



二四

遣唐使

〇 蘆田氏

一、浪速の津より船出して、

風にまかする四つの船。

遣唐使、今ぞ立つ、

大君の 仰を受けて、

國書、捧げて、

雲か山か、 波路はるけき、

唐土はろこしさして勇ましく。

二、鏡のごとき海原も、

あれでは凄き濤の音

四つの船、漂ひぬ、

大君の 仰をいかに、

使命 はたさん。

風か波か、 ある、船路を、

唐土はろこしさして勇ましく。

三、浪速なみの津には歸り來ぬ、

風にまかせて四つの船

遣唐使、今ぞつく、

大君の 仰はたして、

文化 傳へて、

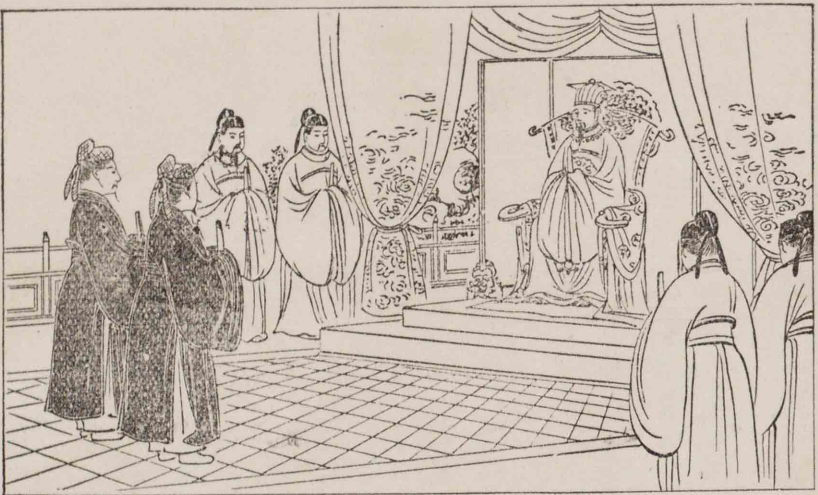
うれし、うれし、

呼びかふ聲に、

御國の さかえ、

とこととはに。』

長久 二七



遣唐使

一、ともに世にあり、人もわれども、
 わが身思はば、人の上をも、
 おもひやりて、自儘せざれ。
 二、人をそこなふ、やがてわれに、
 むくいは来る、世はあひたがひ、
 かばひあひて、ともにやすく。
 三、直き道ふみ、おきて守り、
 人を犯さず、自由をばたもて、
 かくてこの世、ともに楽し。

世は相持
 桑田氏

世は相持

(變ほ調四拍子)

寧口遅フ Fr. Abt. (獨国曲)

1. ト モ ニ ヨ - ニ - ア - リ ヒ ト モ ソ レ
 2. ヒ ト ナ ソ - コ - ナ - フ ヤ ガ テ ソ レ
 3. ナ ホ キ ミ - チ - フ - ミ オ キ テ マ モ

モ ソ - ガ ミ オ - モ - ハ - バ ヒ -
 ニ ム - ク イ ハ - キ - タ - ル ヨ -
 ヲ ヒ - ト ナ オ - カ - サ - ズ シ -

3. 3 3 5 4 6 | i - 5 1 | i. i 7 6
 ト ノ ヴ - ヘ - ナ - モ オ モ ヒ ヤ リ
 ハ ア ヒ - タ - ガ - ヒ カ バ ヒ ア ヒ
 ユ - ナ バ - タ - モ - テ カ ク テ コ ノ

テ ジ - マ マ セ - ザ - レ
 テ ト - モ ニ ヤ - ス - ク
 ヲ ト - モ ニ タ - ノ - シ

ニュートン

(へ調四拍子)

Maestoso. J. G. Laib. (佛國曲)

1. ク ダ モ ノ バ タ ケ ノ リ ン ゴ ノ ミ ガ
 2. チ キュー ノ チ カ ラ ガ リ ン ゴ チ ヒ キ

カ コ セ グ ダ ニ フ カ ヌ ニ ル オ チ シ チ ミ テ
 チ キュー ニ モ ノ ヒ グ チ カ ラ ア ル チ
 チ キュー ト ツ キ ト ハ ヒ ノ チ カ ラ ニ

ハ ヒ ヅ メ ル サ ト リ シ ヒ ト ノ ホ マ
 ル タイ タ ヘ ウ タ ヘ シ

ニュートン

三〇

ニュートン 大和田氏

一、くだもの畠の林檎の實が、風だに吹かぬに落ちしを見て、
 地球に物引く力あるを、始めて悟りし人の譽れ、

た、へうたへ。



二、地球の力が林檎を引き、
 地球と月とは日の力に、
 虚空にかゝれる月をも引き、
 引かるゝ事をも學び得たる、

いさを高し。

三、學の力を思へや人、つとめし功を思へや人、
 落ちたる林檎は一つなれど、世の益なしは百千萬、
 ほまれ歌へ。

ニュートン

三一



間宮海峡

朽ちせぬその名』

熊か虎か、

武夫あはれ。

吹雪の中に、

仇浪さわぐ。

三、仇浪しのぎて、

虎穴を探れる、

もたらす獲物は、

北蝦夷海上、

この春、この宵、

満都の士民は、

一、千代田の春風、

花にぞ眠る。

のどかに馨りて、

間宮海峡

大橋氏

間宮海峡

(と調三拍子)

快活ニ

田村氏

First musical staff with notes and two lines of Japanese lyrics: 1. ナヨダノハルカゼノドカニカチリテ 2. アダナミシノギテフアキノナーカニ

Second musical staff with notes and two lines of Japanese lyrics: マントノシミンハハナニソネムル コケツチサケレルモノノフアハレ

Third musical staff with notes and two lines of Japanese lyrics: コノハルコノヨヒタレカハサメシ ヲメラスエモノハシグマカトラカ

Fourth musical staff with notes and two lines of Japanese lyrics: キタエゾカイジョーアダナミサラグ マミヤーカイキョークチセヌソノナ

穢れなき其名は 天地と共に。」



足の筋断たれて、遠く遣らるるとも、

三、歸り來て奏せし 宇佐の神勅。
これにより日嗣の御榮は久し。

威のために恐れぬ 清麻呂は我ぞ。
利のために、いかでか、心、回すべき、

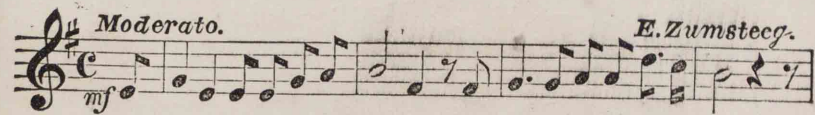
捧げたる此身。

一、逆臣のやいばに、命は死すとも、 大君にもとより

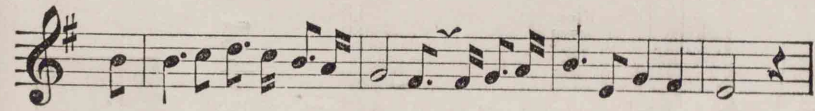
和氣清麻呂 大和田氏

和氣清麻呂

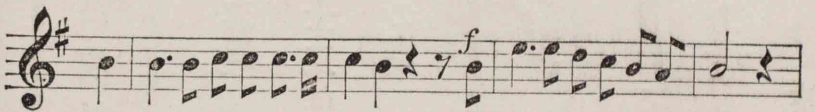
(ほ短調四拍子)



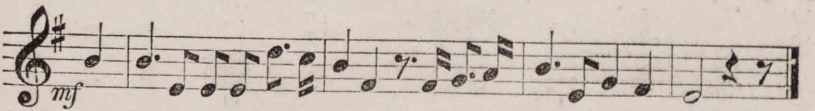
6 | 1 6 6 6 1 2 | 3-7 0 7 | 1. 1 2 2 5. 4 | 3-0 0 |
ギヤクシンノヤイ バーニ イノチハシストモ
カヘリキテソセーシウサノシンチョーグ



3 | 3. 4 5. 4 3. 2 | 1-7. 7 1. 2 | 3. 6 1 7 | 6-0 |
オホギミニモトヨーリササゲタルコノミ
コレニヨリヒツギーノミサカエハヒサシ



3 | 3. 3 4 4 4. 4 | 4 3 0 0 3 | 6. 6 5 4 3 2 | 3-0 |
リノタメニイカアカ ココロカヘスベキ
アシノスゲタタレテ トホクヤラルトモ



3 | 3. 6 6 6 5. 4 | 3 7 0. 7 1. 2 | 3. 6 1 7 | 6-0 0 ||
イノタメニガソレヌ キヨマロハワレ
ケガレナキノナハ アメツチトトモニ

一、薄のしげる野邊を開き、 鋏打ち入れて、畑となせば、
 大麥ひいで、小麥のびて、 限りは知らず、榮さかゆく末。
 二、人家も見えぬ草の原に、 水引き入れて、小田おだとなせば、
 田植の歌も、空にひびき、 ゆたかに得たる、秋のみのり。
 三、開けば土地は、村を益えきし、 植うれば苗は、國を益えきす、
 つとめず、爲さず暮らす人に、 習はで勵め、農の道を。」

開墾

三七

開 墾

(は調四拍子)

愉快ニ 西洋曲.

1. ス ス キ ノ シ ゲールノ ベ チ ヒ ラ キ
 2. シ ャ カ モ ミ エーヌク サ ノ ハ ラ ニ
 3. ヒ ラ ケ バ ト チーハム ラ チ エ キ シ

ク ハ ウ チ イ レーテ ハ タ ト ナ セ バ
 ミ ヅ ヒ キ イ レーテ チ ダ ト ナ セ バ
 ヲ ウ レ バ ナ ヘーハ ク ニ チ エ キ ス

オ ホ ム ギ ヒ イーデ コ ム ギ ノ ビ テ
 タ ウ エ ノ ウ ターモ ソ ラ ニ ヒ ビ キ
 ツ ト メ ズ ナ サーズ ク ラ ス ヒ ト ニ

カ ギ リ ハ シ ラーズ サ カ ユ ク ス エ
 ヌ タ カ ニ エ タール ア キ ノ ミ ノ リ
 ナ 7 ハ テ ハ ゲーメ ノ ー ノ ミ チ チ

開 墾

大和田氏

開墾

三六

ワシントン

(へ調四拍子)

ワシントン

歌マメテ

mf

5 | 1. 1 1 7 | 2-2 5 | 1. 2 3 1 | 2-0 |
 ア ガ チ チ ギ ミー ノ タ マー ヒ タイ ル
 ス コ シ モ ハ ヤー ク ニ ハー イ デ

5 | 3. 2 1 2 | 1. 6 6 5 | 1. 2 3 2 | 1-0 :||
 サ テ モ ミ ゴ トー ノ コ ノー テ ナ ノ
 ソ ノ キ レ ア ダー チ タ メー シ ミ ン

mp

2 | 2. 7 1 3 | 2- 0 3 | 3. 1 2 5 | 3-0 1 |
 ナ ギー ハ ラ フ ミ ギ ヒ ダー リ ク

mf

6. 6 5+4 | 5-0 5 | 1. 1 7 6 | 2-2 5 | 1. 2 3 5 |
 サ モ キー モ ア ラ プ ル サ マー ハ ク ニー ノ ア

2- 0 6 | 5. 3 4 3 | 2. 1 2 5 5 | 1. 3 2 5 | 1-0 ||
 ダ シ ユー ノ テ キー ニ ム カ ヒ シ ヨ ト ク

三八

ワシントン
大橋氏

一、わが父君の賜ひたる、

さてもみごとのこの手斧

少しも早く庭に出で、

その切味をためし見ん、

なぎはらふ、

みぎひだり、

草も木も、

あらぶる様は國の讎、

自由の敵に向ひし如く。』

ワシントン

二、わが父君のめでたまふ、

櫻の樹をば切りたるよ、

知らずと言はばすむべきも、

心すまぬをいかにせん、

とつおいつ、

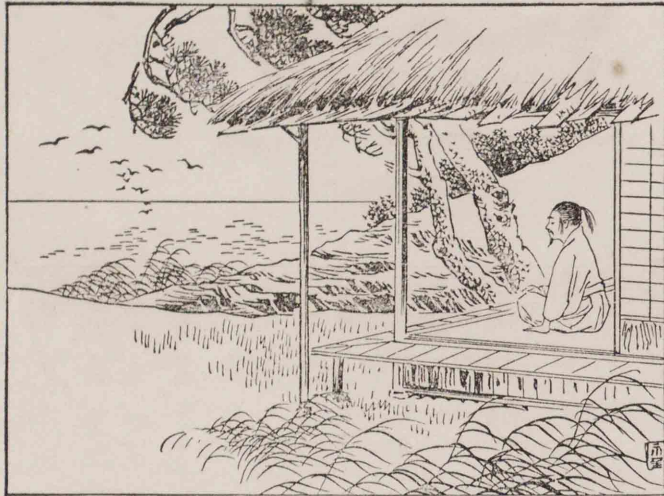
かんがふる

胸の中、

誠の種はもえ出でぬ、

十三洲をおほふまで。』

三九



一、迎への船は 二人を乗せて、
 悲しや、波の あなたに消えぬ。
 鳴きて残る 友なし千鳥
 風だに告げよ、都の空に。
 二、鬼界が島の 磯山風に、
 吹かれて一人 渚なぎさに立てば、
 月も花も 變れば變る、
 昨日のながめ、今宵の心。』

俊寛僧都

大和田氏

俊寛僧都

(ほ短調二拍子)

餘り早カラス Swedish.

3 3 6 6 | 5 4 3 4 3 | 6 5 5 3 | 3 2 2 |

1. △ カヘノフーネーハフタリチノセテ
 2. キカイガシマーノイソヤマカゼニ

mf

1. 2 17 6 5 | 6 7 12 3 | 1. 2 17 6 5 | 6 6 6 |

カナシヤーナミーノアナターニキエメ
 フカレテヒートリミギハニターバ

f

5 3 1 3 5 | 4 2 7 2 4 | 6. 5 5 3 | 3 2 2 |

ナーキータノールトモナシチドリ
 ツーキモハナーモカハレバカハル

mf

1. 2 1 7 6 5 | 6 7 1 2 3 | 1. 2 1 7 6 5 | 6 6 6 |

カゼダーニツグーヨミヤコーノソラニ
 キノフーナーガメコヨヒーノココロ

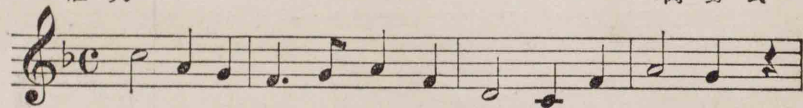
サハラの大沙漠

(ハ調四拍子)

サハラの大沙漠

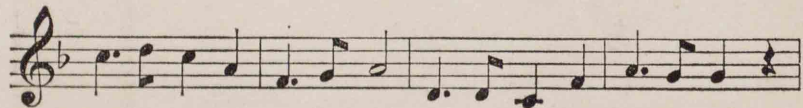
壯大ニ

岡野氏



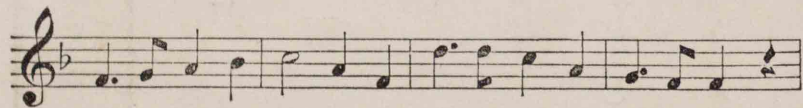
5-3 2 | 1. 2 3 1 | 6- 5 1 | 3- 2 0

1. フール キレ キシニ ナーノ ター カーキ
2. イー マモ カハラ マターイ ショー



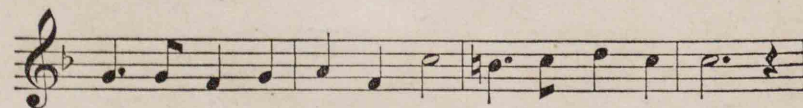
5. 6 5 3 | 1. 2 3- | 6. 6 5 1 | 3. 2 2 0

エジプト ノニシセニイク ヒヤクリ
ミナミニキタニヨチヒニツギテ



1. 2 3 4 | 5- 3 1 | 6. 6 5 3 | 2. 1 1 0

サハラノサーバクサテモヒロシヤ
タビスルローザノサテモチチシヤ



2. 2 1 2 | 3 1 5- | 4. 5 6 5 | 5- 0

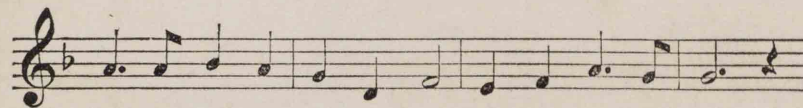
メチサヘギルハーネッブーノ
ツキシサエルヨハースズシケテ

四五

サハラの大沙漠

(つづき)

サハラの大沙漠



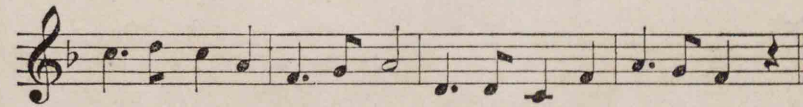
3. 3 4 3 | 2 6 1- | 7 1 3. 2 | 2- 0

アレテツクリシースナノヤマ
ヤドルセンチノーヤシノカメ



5. 5 3 2 | 1. 2 3- | 6. 6 5 1 | 3. 2 2 0

マヒルノアツサーイシサヘヤケテ
テントノソトニワクダハフシテ



5. 6 5 3 | 1. 2 3- | 6. 6 5 1 | 3. 2 1 0

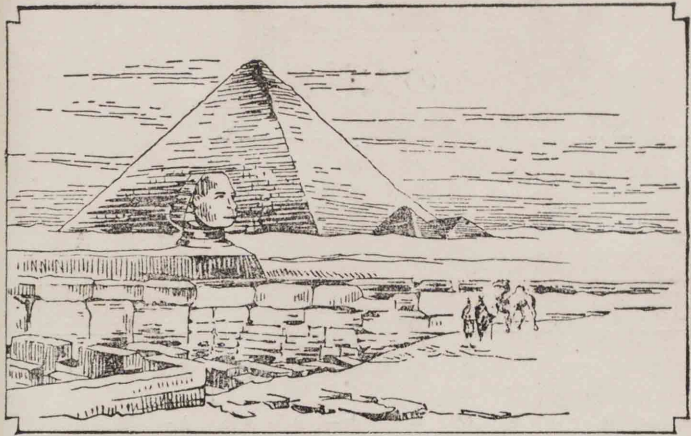
モエタツイロニユフヒハシヅム
アカツキノカゼシツカニワタル

四四



サハラの大沙漠

藍田氏



一、古き歴史に 名の 高さ。

エジプトの西 千幾百里、

サハラの大沙漠、さても廣しや。

目をさへぎるは 熱風の、

あれてつくりし 沙の山、

まひるの暑さ 石さへ焼けて、

燃えたつ色に 夕日は沈む。

二、今もかはらぬ 隊商の、

南に北に 夜を日につぎて、

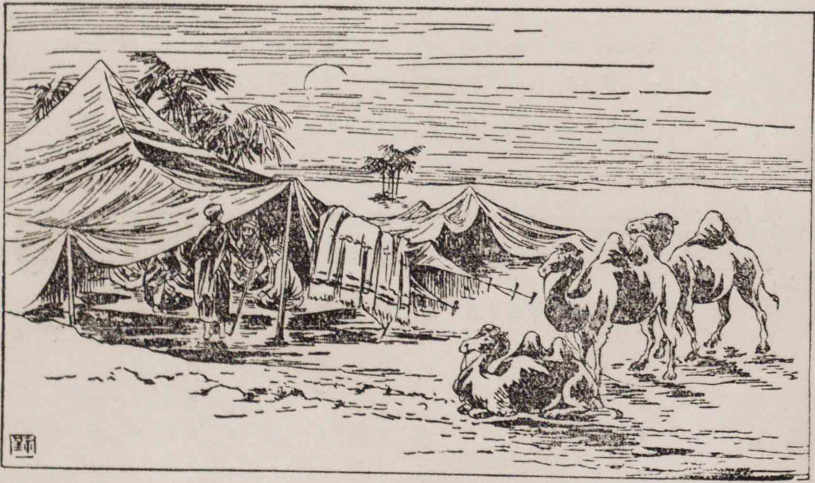
旅するわざの さても雄々しや。

月さゆる夜は 涼しくて、

宿る泉地の 椰子の影、

テントの外に 駱駝は伏して、

曉の 風、静にわたる。』



コロンブス

(變は調六拍子)

コ
ロ
ン
ブ
ス

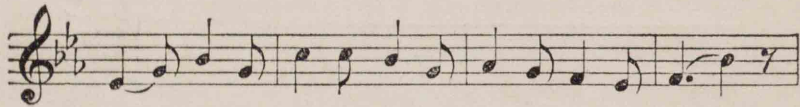
優美ニ

田村氏



1 3 5 3 | 6 6 5 3 | 4 3 2 1 | 2. 5 0 |

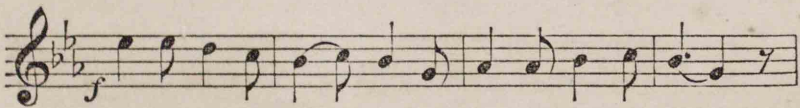
1. チ キュ - ハ マ - ロ シ ヒ ガ シ ヨ リ -
2. シ ダ イ ハ イ マ ヨ リ シ ヒ ャ ク ネ ン -
3. イ サ ミ ニ イ サ ム - コ ロ ン ブ ス -
4. サ レ ド モ ク ッ セ ズ タ シ ロ カ ズ -



1 3 5 3 | 6 6 5 3 | 4 3 2 1 | 2. 5 0 |

- ニ - シ ヘ ニ シ ヘ ト コ ギ ユ カ バ -
ム カ シ ノ コ ト ニ テ ア リ ケ ル ガ -
メ ロ ス ノ ミ ナ ト チ ア ト ニ シ テ -
シ チ ジュ - ヨ ニ チ ノ ソ ノ チ ニ -

四
九



1 1 7 6 | 5 6 5 3 | 4 4 5 6 | 5. 3 0 |

- ヒ ガ シ ノ ハ - テ ト シ ン シ タ ル -
ソ ノ ト ク ト コ ロ チ タ レ モ ミ ナ -
ノ ヲ ダ ス バ ン リ ノ ナ ミ ノ ヲ ヘ -
リ ク チ ハ マ - ヘ ニ ア ラ ハ レ ス -

コロンブス

(つづき)

コ
ロ
ン
ブ
ス



1 1 7 6 | 5 6 5 3 | 4 3 2 3 | 1. 1 0 |

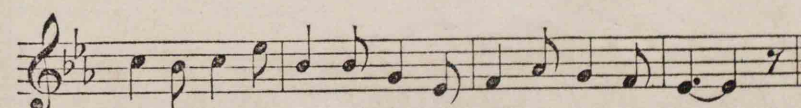
- イ ン ド ノ ハ - シ ニ タ ッ セ ン ト -
シ - ン セ ザ リ シ ニ タ ダ ヒ ト リ -
ク モ ヨ リ ホ - カ ハ ハ テ モ ナ シ -
ソ ノ ヨ ロ コ - ビ ヤ イ カ ナ リ シ -



6 7 1 6 | 5 5 1 3 | 2 1 2 3 | 5. 5 0 |

- オ - モ ヒ サ ダ メ テ コ ロ ン ブ ス -
イ ス パ ニ ヤ コ ク ノ コ - コ - ハ -
メ - ザ ス リ ク チ ハ イ ツ カ タ ヲ -
コ - レ ヲ ナ ン ボ ク ア メ リ カ ノ -

四
八



6 5 6 1 | 5 5 3 1 | 2 4 3 2 | 1. 1 0 ||

- コ - ロ チ ツ ケ ン ト ク ハ ダ テ ス -
ヨ ミ シ テ ヒ ヨ - チ ア タ ヘ ケ リ -
ス イ フ ノ イ カ リ チ イ カ ニ セ ン -
セ カ イ ニ シ ラ レ シ ハ ジ メ ナ ル -

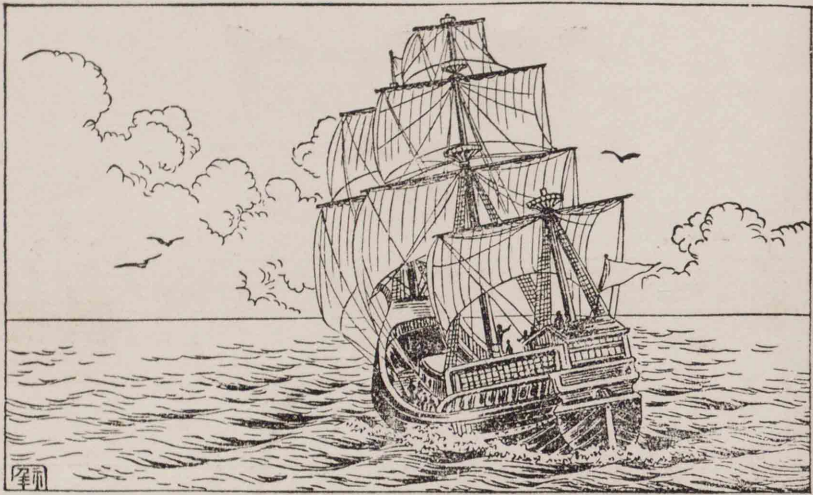
コロンブス 三 大和田氏

一、地球は圓し、東より、西へ、西へと漕ぎ行かば、東の果と信じたる、印度の端に達せんと、思ひ定めて、コロンブス、航路をつけんと企てぬ。

二、時代は今より四百年、昔の事にてありけるが、

その説く處を誰も皆、信ぜざりしに、只一人、イスパニヤ國の皇后は、嘉して、費用を與へけり。

三、勇みに勇むコロンブス、パロスの港を後にして、乗り出す萬里の波の上、雲より外は果もなし。



コロンブス

目ざす陸地は何方ぞ、水夫の怒を如何にせん。四、されども屈せず、たじろかず、七十餘日のそのちに、陸地は前にあらはれぬ、その喜びや如何なりし、これぞ南北アメリカの、世界に知られし始めなる。」

一、うれし、うれし、
 初雪ふる、けふ嬉し。
 ふれよ小雪、初雪よ、
 ふれよ、つもれ。
 身をきる北風、こゝには吹き来ず、
 見よや、見よや、
 庭の木々は、みな眞白。
 ふりて、をやみ、又もふる、
 うれし、うれし。

二、見よや、見よや、
 初雪ふる、いざ見よや。
 ふるよ小雪、初雪の、
 やむよ、降るよ。
 築山・燈籠、籬根のそこ此處、
 うれし、うれし、
 常にかはる、よき眺め。
 あゝおもしろ、庭の雪、
 見よや、見よや。

初雪
 桑田氏

初雪

(ハ調四拍子)

稍早ク. 西洋曲.

3 2 1 0 | 5 4 3 0 | 6 6 6 5 3 | 2 3 4 2 3 0 |
 1. ウレシ ウレシ ハツユキフル ケフウレシ
 2. ミヨヤ ミヨヤ 、 、 、 、 、 イザミヨヤ

6 6 6 5 3 | 2 3 4 2 3 0 | 5 + 4 5 0 | 1 2 5 0 |
 フレヨユキ ハツユキヨ フレヨ ツモレ
 フルヨ 、 、 、 、 、 ノ ヤムヨ フルヨ

5. 4 3 4 5 | 6 5 4 3 | 4. 3 2 3 4 | 5 4 3 2 |
 ミチキル キタカゼ ココニハーフキコズ
 ツキヤマトーローカキネノソココ

3 2 1 0 | 5 4 3 0 | 6 6 6 5 3 | 2 3 4 2 3 0 |
 ミヨヤ ミヨヤ ニハノキギハ ミナマシロ
 ウレシ ウレシ ツネニカハル ヨキナガメ

6 6 6 5 3 | 2 3 4 2 1 0 | 2 2 5 0 | 3. 2 1 0 |
 フリテチヤミ マタモフル ウレシ ウレシ
 アアオモシロ ニハノユキ ミヨヤ ミヨヤ

一、やしろや公園の、草木をたをるな。
 路ゆく人の、さまたげなすなよ。
 公德の一と、守れ何時も。

二、建物きよくし、飲水けがすな。
 忌むべきやまひ、あくまでたやせよ。
 公德の一と、守れ共に。

三、無作法なすなよ、衆人のなかにて。
 子供をたすけ、老人いたはれ。
 公德の一と、守れ常に。



公德

(い短調六拍子)

Andante. *T. W. Lyra.*

3 | 6 6 i i | 7 6 ♭5 6 3 | 4 3 ♯2 3 3 |

1. ヤ シ ロ ヤ コ エ ソ ク サ キ チ タ
 2. タ テ モ ノ キ ヨ ク シ ノ ミ ミ ツ ケ
 3. ア サ ホ ナ ス ナ シュ ジン ノ ナ

cresc.

4 3 ♯2 3 3 | 6 7 i 2̇ | 3̇. 3 3̇ |

チ ル ナ ミ ナ ユ ク ヒ ト ノ サ
 ガ ス ナ イ △ ベ キ ヤ マ ヒ ア
 カ ニ テ コ ド モ チ タ ス ケ オ

mf

3̇ 3̇ 3̇ 3̇ | 3̇ 2̇ i 2̇ 2̇ | i i i i |

マ タ ゲ ナ ス ナ ヨ コ ト ク ノ
 グ マ テ タ ヤ セ ヨ 、 、 、 、
 イ ビ ト イ タ ハ レ 、 、 、 、

mp *dim.*

i 7 6 7 3 | 6. 6 4 | 3. 3 ||

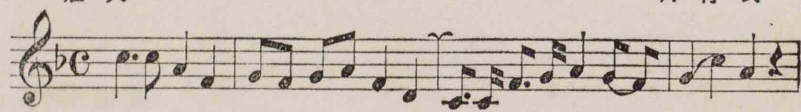
イ ツ ト マ モ レ イ ツ モ ニ
 、 、 、 、 、 、 、 、
 、 、 、 、 、 、 、 、

ナイヤガラ瀑布

(へ調四拍子)

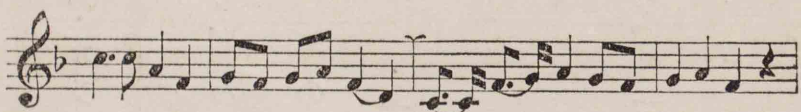
壯大ニ

田村氏



5. 5 3 1 | 2 1 2 3 1 6 | 5. 5 1. 2 3 2 1 | 2 5 3 0

1. ソノナモセーカ-イニトドロキヲタ-レール
2. ア-マノカ-ハ-セノツツミヤクヅ-レ-シ



5. 5 3 1 | 2 1 2 3 1 6 | 5. 5 1. 2 3 2 1 | 2 3 1 0

ト-ザイム-ヒーノ-ダ-イ-バク-フトテ
ミソラノク-モ-ノ-ナ-ダ-レカ-オツル



2. 2 2 5 | 6 5 6 1 2 2 | 1. 2 3 5 | 2. 2 2. 3 2 0

ソ-ハバア-ハ-セテロツピヤクロクジツケン
モ-モ-タ-ル-水煙ハクサンマヒノホリ



5. 5 3 1 | 2 1 2 3 4 6 | 5. 3 2 3 | 2. 2 3. 2 1 0

タカサハオ-ホ-ヨソジューコーロクジョ-ヨ
ゴ-ゴ-タ-ル-振 〇 バンライナリトヨム

ナイヤガラ瀑布

五七

ナイヤガラ瀑布

(つづき)



6. 6 1. 6 5. 5 1. 3 | 2 1. 2 3 2

ナニガフタイコノスベリオ
ルモシイタニッコーエイズレバ



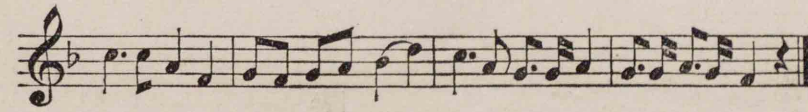
3. 3 2. 1 5. 5 3. 5 | 6. 6 5. 3 | 2. 2 3. 1 6 0

ミシガンヒューロンミ-ツノミツサミノ
ギ-ンノビョ-アニシチサイノ-ニ-ジ



1. 1 2. 1 6 5. 6 | 1. 1 2. 1 6 5

ミツコトゴトクエ-リ-コニ
ヒトアザナラヌシゼンノ繪畫



5. 5 3 1 | 2 1 2 3 4 6 | 5. 3 2. 2 3 | 2. 2 3. 2 1 0

ソソギテオ-ツ-ル-イキホヒノスサマツサ
テンカノイ-カ-ンヨナイヤガラノダイバクフ

ナイヤガラ瀑布

五六

ナイヤガラ瀑布 ∞ 石原氏



一、その名も世界にとどろき渡れる、

東西無比の大瀑布として、

總幅あはせて六百六十間、

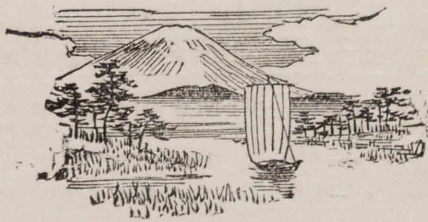
高さは大凡十有六丈餘、

名におふ大湖のスペリオル、

ミシガン、ヒューロン、三つの湖の、

水ことごとくエリー湖に、

そゞぎて、落つる勢の凄じさ。」



二、天の川瀬の堤やくづれし。

み空の雲のなだれか落つる。

濛々たる水煙、白雲まひ上り、

轟々たる振動、萬雷なりとよむ。

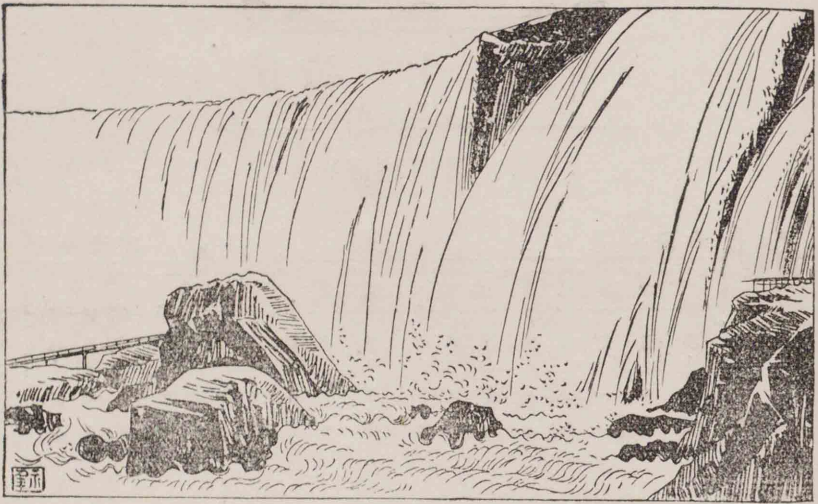
もし、又、日光映ずれば、

銀の屏風に七彩の虹、

人わざならぬ自然の繪畫

天下の偉觀よ、

『ナイヤガラの大瀑布』



ナイヤガラ瀑布

奉天會戰

(い調二拍子)

奉天會戰

壯大ニ

田村氏



5. 5. 5. 5. | 6. 5. 5. 3. | 4. 4. 3. 2. | 1. 2. 3. 0

1. フブキノ ナカノー フントー グセン
2. ヲガリケ ゲンノー ユーキハ アサヒ



5. 5. 1. 7. | 7. 6. 5. | 4. 4. 6. 5. | 5. 0

イサチハ タカク ホーテンノ
ササガル ハタノ ミシルシノ

六三



5. 5. 6. 5. | 5. 5. 1. 3. | 2. 3. 2. 7. | 1. 0

カチドキ トーコソ ヒビキケレ
△ーカフトコロニ テキハナシ

奉天會戰

(つづき)

奉天會戰



3. 3. 3. | 4. 3. 2. 1. | 2. 2. 2. 3. | 2. 2. 5. 0

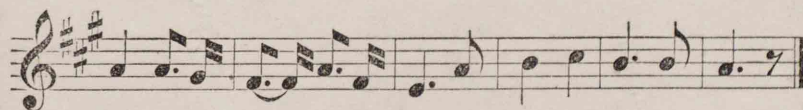
テキノ タイゲン ナーカバ ホロビ
タニノ ホマレノ セカイニ マカク



3. 3. 3. 3. | 4. 3. 2. 1. | 2. 3. | 2. 2. 5. 0

タイセイ ココニ サダマリテ
トドロキ イテシクッノヒータ

六二



1. 1. 7. | 6. 6. 1. 6. | 5. 1. | 2. 3. | 2. 2. | 1. 0

平和ノ ヒーカリ カガ ヤキソメ
ウタヒ ハヤサン イツノヨマデモ

奉天會戰
三三 蘆田氏

第一章

吹雪の中なかの奮闘苦戦、

いさをは高く奉天の

かちどきところそ

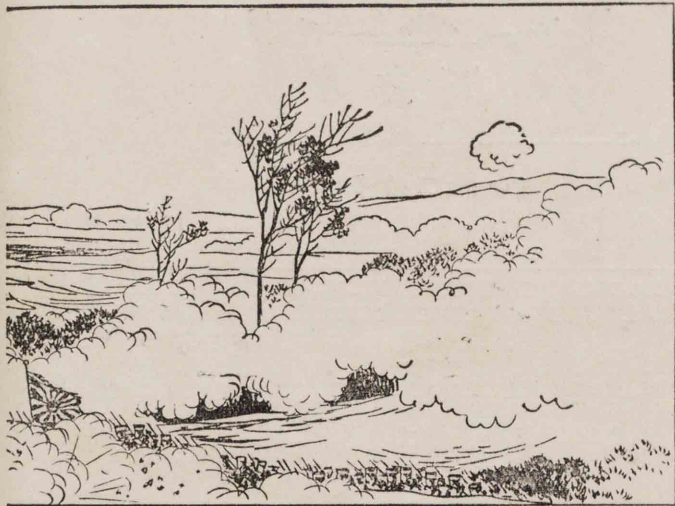
響なきけれ。

敵の大軍、半なかほろび、

大勢ここに定まりて、

平和の光、

輝あきそめぬ。



第二章

我陸軍の勇氣は朝日、

ささぐる旗のみしるしの

向ふところ

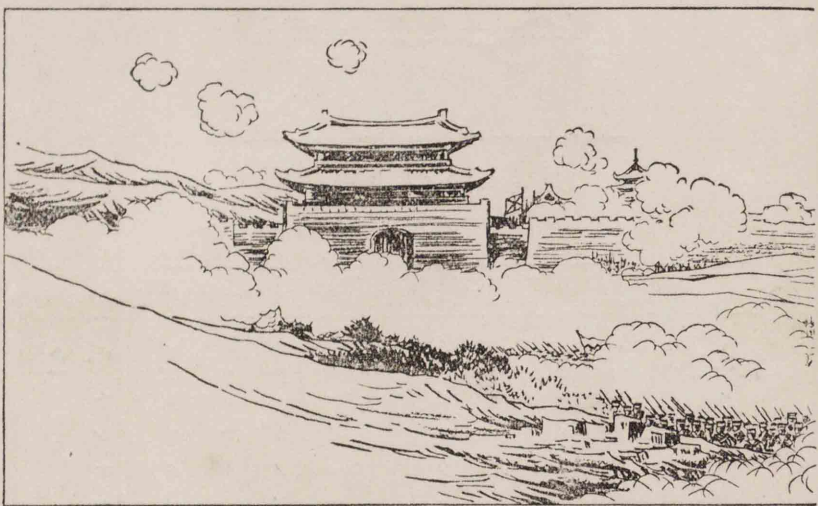
敵はなし。

國の響ほまれの世界に高く、

とどろき出でし今日の日を、

うたひはやさん、

『いつの世までも』



阿新丸

(い短調二拍子)

阿新丸

悲壯ニ

小松氏

mf

3 3 i. 7 | 6 6 7 | i i 7. 6 | 7. 0 |

1. ハ ツ ネ チ モ ラ ス ア フ サ カ ノ
タ ダ ア フ セ チ バ タ ノ ミ ニ テ

2. サ ミ ダ レ シ ゲ キ サ ツ キ ヤ ミ
ニ ハ ノ タ ケ チ バ タ ゲ ノ ボ リ

3 3 i. 7 | 6 6 7 | 3 7 i. 7 | 6. 0 |

ヤ マ ホ ト ト ギ ス キ キ ス テ テ
コ シ カ ヒ モ ナ ク ユ ク ミ ツ ノ
ヨ ハ ノ ク ヒ ナ ノ イ ニ ナ キ テ
ノ ボ レ バ タ ル ル ホ ヨ ノ ソ ト

六七

7 7 i. 7 | 6 5 6 | 3 3 4. 2 | 3. 0 |

イ デ タ ツ チ ゴ ノ チ ニ ソ ナ ク
ア ヲ ト キ エ ニ シ ソ ガ チ チ チ
チ チ ノ ア ダ ナ ヤ ネ ラ ヒ ケ ン
カ ミ ノ タ ス ケ カ ノ ル フ ネ ノ

阿新丸

(つづき)

阿新丸

i i 7. 6 | 3 3 7 | 6 i 7. 7 | 6. 0 ||

ユ ク ヘ ハ イ ツ ラ コ シ ノ ミ チ
シ ノ ア コ コ ロ ヤ イ カ ナ リ シ
コ ウ テ ナ ガ ラ モ コ ノ カ タ ナ
ア ト モ シ ラ ナ ミ コ ギ カ ヘ ル

7 7 7 7 | i. i 7 7 | 7 7 i. 7 | 3 7 |

コ ス モ イ ト ハ シ ー ガ ヤ シ ー ラ ズ
コ ヨ ヒ ハ ラ サ ン ー ヲ ガ ウ ー ラ ミ

p

7 7 7 7 | i. i 7 | 7 7 i. 7 | 3 7 |

ト マ リ ハ イ ツ コ サ ド ガ ー シ マ
ガ ハ ム レ タ チ テ ト ー モ シ キ エ

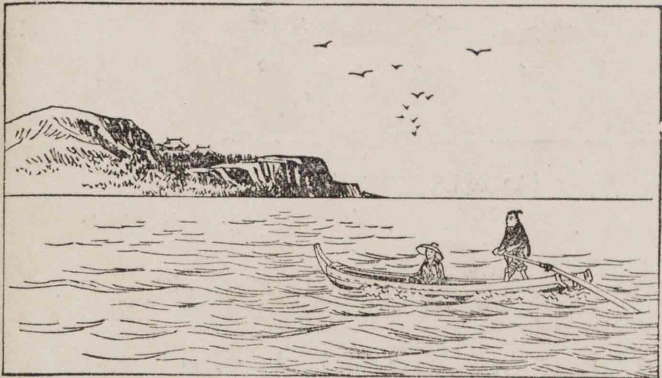
六六

mf *rit.*

6 6 1. 7 | 6 6 3 | 6 i 7. 6 | 6. 0 ||

ア ラ ナ ミ ト ホ キ ア マ ノ カ ハ
マ ク ラ ハ ト ビ テ チ ニ ナ ガ ル

D. C.



一、初音をもらす逢坂の、山時鳥ききすてて、
 出でたつ稚兒の血にぞなく。
 行方はいづら越の路、
 こすもいとはし親不知。
 とまりはいづこ佐渡が島、
 荒浪遠き天の川。
 ただ逢瀬をば頼にて、
 こしかひもなく逝く水の
 泡と消えにしわが父を、
 忍ぶ心やいかなりし。

三、五月雨しげき五月闇、夜半の水鶏の音に鳴きて、

父の仇をやねらひけん。

小腕ながらもこの刀、

今宵はらさん、わが怨。

蛾はむれたちて、ともし消え、

枕はとびて、血に流る。

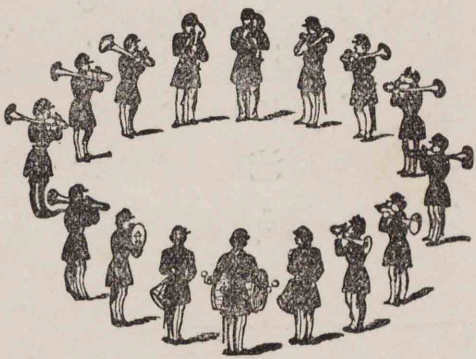
庭の竹をばよちのぼり、

上ればたるる湟の外、

神の助か、乗る船の

あとも白浪漕ぎ歸る。」





大正三年五月廿七日印刷
大正三年五月三十日發行

高等小學唱歌第一學年

定價金貳拾五錢

不許
著作權
所有
複製

著者 同 同 發行所 印刷者 印刷所

大橋銅造
納所辨次郎
田村虎藏
東京市京橋區築地一丁目六番地
佐藤勝太郎
東京市神田區雜子町三十四番地
綾部喜久二
東京市神田區雜子町三十四番地
宮本印刷所

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

發賣所

株式會社 國定教科書共同販賣所

1900.7.17

広島大学図書

0130449462

